

平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年11月14日

上場会社名 株式会社フェニックスバイオ 上場取引所 東  
 コード番号 6190 URL http://phoenixbio.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 藏本 健二  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部長 (氏名) 田村 康弘 TEL 082 (431) 0016  
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	557	—	26	—	△29	—	△33	—
28年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △45百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	△11.58	—
28年3月期第2四半期	—	—

(注) 1. 当社は、第2四半期の業績開示を平成29年3月期より行っているため、平成28年3月期第2四半期の実績及び増減率、平成29年3月期第2四半期の増減率は記載しておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	2,300	1,930	83.9
28年3月期	2,337	1,975	84.5

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 1,930百万円 28年3月期 1,975百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,273	4.7	203	6.8	180	20.9	155	24.2	53.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期2Q	2,888,300株	28年3月期	2,888,300株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	一株	28年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期2Q	2,888,300株	28年3月期2Q	一株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料2ページ「1. 経営成績・財政状態に関する分析（1）経営成績に関する分析」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用環境が改善傾向にあるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しておりますが、新興国経済の減速懸念や英国のEU離脱問題など海外経済の不確実性の高まりから、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの顧客が属する医薬品業界では、後発品との競争激化、製品開発の停滞、保険料の財政圧迫に起因する価格値下げ圧力等により製薬企業の収益性は低下する一方、膨大な開発費負担が生じる新薬開発への投資効率を高める目的でM&Aによる業界再編が依然活発な状況にあります。このような状況を背景に、製薬企業では新薬開発を迅速かつ効率的に実施するために、臨床試験等の開発業務を外部のCRO（開発業務受託機関）へ委託するケースが増えており、当社グループがターゲットとしている前臨床試験におきましても製薬企業の外部委託は拡大傾向にあります。

このような状況のもと、当社グループが提供するPXBマウスを使用した肝炎試験（薬効評価）については、B型肝炎の治療薬開発を行っている製薬企業から引き合いが多くあるものの、売上高は試験スケジュールの影響を受けました。また、DMPK/Tox試験（薬物動態関連試験、安全性試験）については、肝炎試験と比較して多くの新薬が対象になり得ることから今後の成長分野として位置付けており、各製薬企業に対して営業活動を行うとともに、PXBマウスの有用性を共同で研究するコンソーシアムの活動を開始しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は557,692千円、営業利益は26,545千円、経常損失は29,688千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は33,438千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,853,569千円となり、前連結会計年度末に比べ34,307千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が35,261千円減少したことによるものです。また固定資産は446,798千円となり、前連結会計年度末に比べ2,774千円減少いたしました。これは主に投資その他の資産が2,742千円減少したことによるものです。この結果、資産合計は2,300,368千円となり、前連結会計年度末に比べ37,081千円減少となりました。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は220,543千円となり、前連結会計年度に比べ1,694千円増加いたしました。これは未払法人税等が19,509千円減少した一方で、その他が14,228千円、買掛金が4,347千円、1年内返済予定の長期借入金が2,628千円、それぞれ増加したことによるものです。また固定負債は149,420千円となり、前連結会計年度末に比べ6,245千円増加いたしました。これは主に退職給付に係る負債が48,000千円減少した一方で、長期借入金が49,088千円、その他が5,127千円、それぞれ増加したことによるものです。この結果、負債合計は369,963千円となり、前連結会計年度末に比べ7,940千円増加となりました。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,930,404千円となり、前連結会計年度に比べ45,022千円減少いたしました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が33,438千円、為替換算調整勘定が11,583千円、それぞれ減少したことによるものです。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ625,941千円減少し、865,118千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は12,399千円となりました。これは主に為替差損58,023千円があった一方で、退職給付に係る負債の減少48,000千円、税金等調整前四半期純損失32,629千円があったことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は613,508千円となりました。これは主に定期預金の預入による支出709,540千円によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は50,918千円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出156,284千円があった一方で、長期借入れによる収入208,000千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成28年5月13日公表の業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「営業外費用(為替差損)の計上、平成29年3月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(退職給付制度の移行)

当社は、平成28年9月1日付で退職一時金制度から確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号 平成14年1月31日)及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第2号 平成19年2月7日)を適用しております。

本移行に伴い、当第2四半期連結累計期間の特別損失として2,941千円を計上しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,603,740	1,568,478
売掛金	90,567	68,887
製品	49,046	54,734
仕掛品	66,045	67,163
原材料及び貯蔵品	65,760	66,098
その他	12,715	28,207
流動資産合計	1,887,876	1,853,569
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	119,908	113,087
工具、器具及び備品(純額)	16,235	20,783
土地	296,000	296,000
リース資産(純額)	5,697	5,052
有形固定資産合計	437,841	434,923
無形固定資産	2,642	5,528
投資その他の資産	9,089	6,346
固定資産合計	449,573	446,798
資産合計	2,337,450	2,300,368
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	30,388	34,735
1年内返済予定の長期借入金	53,376	56,004
未払法人税等	25,204	5,695
その他	109,879	124,108
流動負債合計	218,848	220,543
固定負債		
長期借入金	83,407	132,495
退職給付に係る負債	48,000	—
資産除去債務	2,893	2,923
その他	8,874	14,002
固定負債合計	143,174	149,420
負債合計	362,023	369,963

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,229,186	2,229,186
資本剰余金	449,096	449,096
利益剰余金	△702,790	△736,228
株主資本合計	1,975,492	1,942,054
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△66	△11,649
その他の包括利益累計額合計	△66	△11,649
純資産合計	1,975,426	1,930,404
負債純資産合計	2,337,450	2,300,368

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	557,692
売上原価	176,951
売上総利益	380,741
販売費及び一般管理費	354,195
営業利益	26,545
営業外収益	
受取利息	4,261
その他	563
営業外収益合計	4,825
営業外費用	
支払利息	879
為替差損	60,179
営業外費用合計	61,059
経常損失(△)	△29,688
特別損失	
退職給付制度終了損	2,941
特別損失合計	2,941
税金等調整前四半期純損失(△)	△32,629
法人税、住民税及び事業税	808
法人税等合計	808
四半期純損失(△)	△33,438
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△33,438



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純損失(△)	△33,438
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	△11,583
その他の包括利益合計	△11,583
四半期包括利益	△45,022
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△45,022
非支配株主に係る四半期包括利益	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純損失(△)	△32,629
減価償却費	11,500
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△48,000
受取利息	△4,261
支払利息	879
為替差損益(△は益)	58,023
退職給付制度終了損	2,941
売上債権の増減額(△は増加)	21,680
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,143
仕入債務の増減額(△は減少)	4,374
未払金の増減額(△は減少)	△18,800
前受金の増減額(△は減少)	15,754
その他	△2,078
小計	2,241
利息及び配当金の受取額	1,411
利息の支払額	△806
法人税等の支払額	△15,245
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△12,399</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の預入による支出	△709,540
定期預金の払戻による収入	103,180
有形固定資産の取得による支出	△7,148
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△613,508</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入れによる収入	208,000
長期借入金の返済による支出	△156,284
リース債務の返済による支出	△797
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>50,918</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△50,952
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△625,941</b>
現金及び現金同等物の期首残高	1,491,060
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>865,118</b>

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

**【セグメント情報】**

当社グループは、「PXBマウス事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。